

第3回 柳瀬川・空堀川流域連絡会 会議録

日 時:平成13年2月2日(金)午後2時～4時15分

場 所:東京都北多摩北部建設事務所、2階会議室

出席者:委員21名(全24名)

【議 題】

- 1.開 会
- 2.新委員紹介
- 3.情報交換
- 4.連絡会の運営について
 - (1)事務局案(たたき台)説明
 - (2)意見交換
- 5.今後の進め方
- 6.その他
- 7.閉会

【議 事】

1.開 会

事務局:第3回の流域連絡会を始めたい。前回に近くで開催したいという話があったが会議室がどこもふさがっていたので遠くまでご足労頂いた。次回はできるだけ早く予定して、地元で開催したい。今日は5名の方から欠席の連絡を受けている。

まず、お手元の資料の確認をお願いしたい。資料-1から-8までである。続いて事務局も多少メンバーが変わったので自己紹介したい。

【事務局自己紹介】

事務局:それでは座長から一言お願いしたい。

座 長:事務局を代表して挨拶したい。今年是多摩地区にも大きな雪が3回ほど降った。その雪が溶けていない中、また遠路お集まり頂きありがとうございます。第2回以降時間がたつたがその間に柳瀬川、空堀川では色々なことがあったので後ほど紹介したい。本日のメインテーマは、今後の連絡会の進め方ということで分科会等の設置について提案したいのでご意見を頂きたい。分科会の各々のテーマについては、たたき台となるものを委託業務で作成中なのでいずれ紹介したい。あまり時間をあけずに開催していきたいが、その期間を補完する意味で、以前送付した「連絡会だより」を作り、情報を公開して会を充実させていきたい。本日は長時間になるがよろしく申し上げます。

2.新委員紹介

事務局:議事を始める前に新委員を紹介したい。要綱では行政委員だけ代わり、団体及び市民委

員は任期までは交代しないことになっている。

【新委員紹介】

3. 情報交換

事務局：議事に入りたい。進行を座長にお願いしたい。

座長：21世紀に入り最初の会となる。夢多き時代にしたい。次第に沿って議事を進めたい。
資料 - 3の説明を事務局にお願いしたい。

事務局：前回から時間があいているので第1, 2回のおさらいをしたい。資料 - 3を見て頂きたい。第1回では水量の確保、水質についての意見が多かった。魚道、浸透マス、将来の川の姿としてより親しめる川、水辺の植栽、自然豊かな川についての意見があげられた。具体的な場としては、下砂公園付近は参加型でやりたい、からぼり広場の旧川の利用は連絡会で議論したい、水源、工事について、川のかたちなどについても意見があげられた。また、会の進め方については、会場等の開催方法や分科会について意見があがった。それぞれ議事録は見て頂いていると思うが、おさらいということでまとめた。懸案であった議事録の公開については、色々ご意見頂いたが、まとめすぎると流れがわからなくなるので名前をふせてそのまま公開することを提案したい。

座長：現地見学会のあとに、貴重な意見が寄せられたアンケートが返ってきたのでその概要を事務局から説明して欲しい。

事務局：1枚目は、連絡会の進め方として分科会等のあり方についての意見をまとめた。このまま読み上げたい。

【資料 - 4 連絡会の進め方について 説明】

事務局：2枚目以降は、見学会についてのご意見をまとめてある。これについては今後時間を取ってご紹介、意見交換したいので本日は控えたい。

座長：議事録の公開については、要綱では都庁22Fの川の何でも相談コーナー、北北建、沿川4市の関係課に置いて市民が閲覧できるようにすることになっている。まず形式の話があると思う。事務局案では発言者名は消し、短くエキスだけにせず、全文を出すとしている。私的には、文章をまとめると前後の関係がわからなくなるのでそのまま出すほうが良いと思う。皆さんから意見を頂きたい。第2回の議事録で下線のところは発言者が不明だったところ。特に意見がなければ事務局の提案のかたちで進めたい。その際、関係4市の方にはお世話になると思うがよろしくお願いしたい。

行政委員：趨勢から言っても議事録の公開は避けられないと思う。会議の中では勘違いして発言することもあるが、事前に確認するということなので修正できると思う。正しい情報を公開して欲しい。また、名前を伏せれば安心して発言ができて良い。

座長：要綱の中で名前は伏せる、特定の利害が生じるものは削除するというにしている。1度委員の皆さんに目を通してもらった上で公開する。次回以降も確認の上、公開した

いがいかがか。

【全員了承】

座長：ありがとうございます。事務局案の通り進めていきたい。柳瀬川・空堀川では1年間で様々な動きがあった。それをカレンダーにまとめたので事務局より説明して欲しい。

事務局：2000年に柳瀬川・空堀川において、工事第2課が関わったものをここにまとめている。また、地元からの苦情の対応はあげていない。さらに行政としての日常業務はすべて網羅している訳ではない。

1月は、平成11年度の柳瀬川整備工事（その9）に関することが多かった。

2月は、第2回流域連絡会が開かれた。

3月は、北北建が管理している7河川の一斉点検、通水まつり実行委員会が行われた。

4月は、空堀川川まつり実行委員会の開催が多い。また空堀川に清流を戻す会が主催した河川清掃が行われた。

5月は、空堀川川まつりが行われた。また、浄水橋下流ではコイのぼりが泳いでいた。

6月は、全日本建設技術協会より通水まつりが表彰された。また、宮本さんが東京都環境賞を受賞。

7月は、河川愛護月間で川の日ワークショップが行われ、柳瀬川も出たが賞はもらえなかった。また、水防本部設置が多いが大きな被害はなかった。

8月は、平成12年度工事も徐々に始まった。

9月は、台風による水防本部が設置されたが大きな被害はなかった。2日には清瀬せせらぎ公園がオープンした。また、柳瀬川では小学生が溺れて亡くなった。

10月は、平成12年度の改修が本格的にはじまり、空堀川で新規の事業承認の説明会が開かれた。また、金山調節池の清掃が行われた。

11月は、平成12年度柳瀬川整備工事（その10）で議論が多く行われた。

12月は、特に行事はなかったが、師走ということであわただしく過ぎた。

詳しくは、後ほどゆっくり読んで頂きたい。

座長：これについては、時間があれば議論したい。次に河川審議会の中間答申について説明をお願いしたい。

行政委員：河川審議会では4項目について現在審議しており、今後の川のあり方について中間答申が出された。配布された「がたろう通信」にもその概要が記述されている。従来の治水対策は、築堤及び河道確保等の河川改修により、流域の水を川に集めて海まですみやかに流すのが基本だった。近年、都市化の進行に伴って雨水の流出量が増えてきた。また、氾濫の危険性の高い平地に人家が建ち並んでおり河道の拡幅が難しくなっている。さらに都内では100mm/h規模の降雨があり、東海では昨年夏に93mm/h、530mm/日という伊勢湾台風を超える降雨があり、大規模な洪水氾濫の可能性が高くなっている。これにより現在のような連続堤防方式では対応できなくなっている。これまでの山間部での治水対策は、土砂の流出を防ぐ砂防対策や雨水の貯留を行うダム整備、そこから

海まで連続堤防で治水を行っており、そのやり方では限界が生じてきている。新しいやり方では、山間部の治水は今まで通りだが山林を保全し、流出を抑制する。上流部は洪水によってあふれることも想定し、その時の被害を最小限にする流域対策として輪中堤、宅地のかさ上げ、霞堤による遊水池を作って洪水に時間差をつける。中下流は従来の堤防を進めるとともに、河川と下水道との連携の強化、ハザードマップを作成してどこに避難すればいいかなどを明確にする。全国2,200の市町村で作成するよう法制化が進んでいる。さらに雨水貯留や浸透などの流域の総合治水対策も行っていく。これらは今回始めて出された考え方であり、要するに川の水があふれてもいい場所を作るということ。

座長：カレンダー、審議会中間答申について質問はあるか。

市民委員：カレンダーの2月だが、JRの湧水についての話し合いの中身を教えて欲しい。

事務局：JR武蔵野線の湧水を野川へ持っていくという話を聞き、三鷹保全區へその湧水の状況を聞きに行った。柳瀬川、空堀川については、御成橋、新秋津の駅から水が出ているという現況を教えてもらった。

市民委員：聞いたところによると、JRは行政から要望があれば対応する用意があるということだった。これから水が減る傾向にあるので対応して欲しい。

座長：後々議論していきたい。他に何かあるか。

市民委員：カレンダーは非常に面白いと思う。

座長：パソコンも普及してきているのでこれからも色々できると思う。皆さんからもアイデアを頂きたい。それではここで10分ほど休憩を取りたい。

【休憩】

4. 連絡会の運営について

座長：連絡会の運営について、皆さんから貴重な意見を頂いた。それを元に事務局で素案を作った。色々意見を頂きたいが、まず事務局より説明をお願いしたい。

(1) 事務局案(たたき台)説明

事務局：資料-7について説明したい。横に組織の区分として4市、北北建、荒下に分かれている。縦に提案を示してあり、これを議論したい。分科会は地域別、専門部会はテーマ別という分け方をしている。分科会について、武蔵村山市は源流域について議論する源流ワークショップ(仮称)、東大和市は周辺地域と川との関わりの計画づくりとして下砂公園について、東村山市は野口橋前後の500m程度の旧川について、清瀬市は清瀬橋の旧川跡地利用についてを提案している。川まつり、クリーンアップ、川づくり懇談会、ワークショップなど活動中のものもあるので、これらとの関わりについても議論したい。まだ実際には動いていないが東大和市、東村山市にまたがる旧川の利用として上橋付近についても議論できると思う。専門部会は、今見えているものとしては空堀川水質浄化対策会が動いている。提案としては、水量・水質改善検討会をあげているが重なる部分がある。対策会では定期的に調査等も行われている。行政の予算も投入されているので2重にやることはないと思う。連絡会の名のもとで、個別の分科会、専門部会を行い、

連絡会は情報交換の場として開催する。河川管理者として北北建は、河川整備計画の策定や改修事業の実施等を行う。荒下は国として河川整備方針を策定し、河川整備計画の事業認可を行う。総合治水対策協議会もあり、4市もメンバーに入っている。普通河川の管理は本格的に市へ移管される。流域には北川のような準用河川もある。水循環マスタープラン検討会、柳瀬川フォーラム、新河岸川流域フォーラムもある。色々と重複しているが、流域連絡会としては個別の分科会、専門部会を持ち、全体の情報交換の場としたい。これにより回数が少ないという問題が解消され、人数的にも多くの人の意見を取り入れられる。運営の基本方針として、分科会は各市がまとめる。都も必要に応じてメンバーに入る。専門部会は団体委員や市民委員などその専門の人がまとめる。連絡会は全体として情報交換とし、北北建が運営する。これを事務局として提案したい。

(2)意見交換

座長：付け加えると下砂公園整備計画、野口橋周辺の旧川、清瀬橋周辺の旧川について、現在たたき台を作成中。4月からは議論ができる。水量・水質についても調査中であるので提示できると思う。まず、全体的に見て枠組みとしてはどうか。

市民委員：これはこれでいいと思うが、我々が一番感じていることは、流域全体でどういう川になるかということが見えないということ。空堀川は、下流は川に降りられないまた降りたら上がれないし、上流ではフェンスがあり入れない。しかしこれは時代とともに変わってきており、その様を見ることができが、これから河川法が変わって川の整備がどう変わっていくかということに興味があり、また良く聞かれる。こういう思想を持ってやるという整備計画が見えてこない。この連絡会で何に対して意見を言えいいのかわからない。情報交換の場として位置付けられているのでその通り進むのか。少なくとも整備を進めているところは、こうなるという情報公開を行って欲しい。市民へPRになると思う。求めればできるだろうが、この連絡会の場で行って欲しい。このようなことを1本の柱に入れて、そういった意見が反映されるようなシステムづくりをして欲しい。

座長：2つご意見があった。将来の話は、河川整備計画を取りまとめる中で見えてくると思う。しかし、今は4、5年先が見えないのでスポット的な話をしながら具体的に進めていきたい。短期、中期、長期の川づくりをこれから整理する必要があると思う。2つめは情報公開についてだったと思う。事務局から説明をお願いしたい。

事務局：河川整備計画は昔に作成したものがあり、それに従って現在工事を進めている。平成9年に河川法が変わり、これから新しい計画を作る。行政計画として作成するが、その過程の中で住民参加で作ることも盛り込まれている。そういう機会に連絡会の議論も反映できることもあると思う。私案だが検討会のようなものを作って進めてもいいと思う。そのやり方から考えていければいい。

行政委員：この流域連絡会をベースにして進めていければいい。河川整備計画は素案を現在作成中である。これには下流の埼玉県との協議も必要でそれが終わり次第たたき台ということで提示したい。完成の時期はわからないが随時報告したい。検討会を作るなりメンバー主体でやってもらってもいい。旧法のときに作成した計画はあるが、必ずしもこれに沿った形で整備している訳ではない。できるだけ多自然型川づくりを進めている。基本的

には、そういったものを取り込んだ計画になると思う。たたき台ができれば提示したい。

座長：具体的な話を分科会や専門部会で進めながら、それが整備計画に反映されるとよい。情報公開についてはどうか。

事務局：地域に対して工事説明会は行っている。連絡会で工事の説明は行ったことがないので要望があれば行いたい。

座長：「連絡会だより」にも載せて補完していきたい。また、連絡会の冒頭に情報としてお知らせできると思う。

市民委員：分科会の仕組みはこれでいいと思う。いよいよ東大和市に整備が入ってくる。第一に治水、川の近くでも安心して生活できることを考えたい。去年もそうだったが、少し大雨が降ると道路が冠水する。環境よりもまず治水。また、下砂公園はいつできるのか。

15年も20年も先であれば議論にも力が入らない。清水大橋まで来るのはいつ頃なのか教えて欲しい。もうひとつ、調節池が昨年また新たにできた。いくつかあるがこれをどう活用するのか。霞堤にして遊水池にするのか、無くなるのかを聞きたい。地元の人にもよく聞かれる。最後に要望だが、去年池が満杯になった際はすごい悪臭がした。市に連絡して治ったが、川の水が汚い。旧川を調節池にして水を貯めてはどうかとの意見があるが、このままでは旧川に貯めても衛生上よくない。もしそうするならば木を多く植えて欲しい。

座長：要望は分科会の議題にもなる。質問について事務局から答えて欲しい。

事務局：治水は当然第一に考えている。河川法改正に伴い、環境の占める割合が大きくなってきたということ。治水を忘れていた訳ではない。清水大橋までは、平成13年度に整備できるように予算要望を出している。調節池の活用についてだが、河川改修は下流から進めるのが原則。しかしそれを待っていると上流の治水対策が進まないで、用地が確保できたところ、ショートカット部で一時的に池を作っている。そこは将来的には1本の川になる。3箇所のうち上砂神明、狭山高木調節池の2つは川のかたちそのままに作られている。芝中調節池は膨らんだ部分があるので、緩傾斜で川に近づけるような整備を考えている。

座長：まもなく閉会の時間だが少し延ばしたい。

市民委員：先ほど出された意見とも関連するが、やはり川づくりの中長期的な全体の見通しが気になる。たたき台をいつの時期に作るのかが問題。市民の意見を集めた上でたたき台を作ったほうがいいと思う。市民も参加型で作ったという実感が湧く。分科会についてはいいと思うが、市民の声無き声、流域全体で意見をまとめていくということを専門部会としてやってはどうか。それを河川整備計画に取り入れていくというプロセスを踏めないかということ提案したい。

座長：貴重な提案だったと思う。

事務局：専門部会以外にもテーマがあると思う。動植物などのマップを作ったり、計画に必要な情報を集めたりするようなこと。逆に皆さんから情報を頂いて必要なものを作ってほしい。

市民委員：仕組み作りを行政の力を借りて進めていきたい。

事務局：枠組みとして専門部会という制度を作ればいい。そこから具体的なテーマをあげていきたい。行政もバックアップできる。

座長：今日は趣旨を確認したい。細かくは次回議論したい。

行政委員：地域の行政がどのように関わっていけばいいのか。

行政委員：市のほうが住民に近い行政ということ。都も協力するが、市も市民の声を聞いて流域連絡会に出してもらおうということをやりたい。流域では、浸透施設などお互いの役割分担がある。窓口として市でやってもらえるとありがたい。

行政委員：地方分権の問題もある。旧川の利用についての問題もある。地域に密着した連絡会ということで綿密な関係で進めたいが、市町村も業務が多忙なので理解してほしい。

事務局：計画を作って実施する時に問題となるのは、その地域の人と環境を守りたいという人の利害をどう調整するか。それは行政のやる場所。各場所については、その地域の人と全体の環境を大切にする人の意見調整が必要。分科会としては、地域密着型で話をしないと決まらない。もう1点としては、回数を増やす、多くの人から意見をもらうという意味で、市が事務局として調整役となって進めることより深い議論ができると思う。

市民委員：清瀬市では、対岸の所沢や他の県・市との調整があるがその問題はどうか。

事務局：清瀬市は、まず第一段階として清瀬橋のところの旧川やせせらぎ公園などのネットワークをどうするかということが課題。清流苑の前は第二段階。

市民委員：事務局の努力に敬意を表す。アンケートのまとめの中に私が提案したものも入っている。ここでは空堀川を想定していたが、清瀬市だから上流は関係ないということではなく、全体の改修計画に関わっていきたい。下流の経験や反省を上流でも生かして欲しい。これは分科会だけではなく全体会でなければだめ。金山緑地公園でもやったが、これを広げた空堀川全体の市民懇談会を開いて欲しい。分科会は各地域の議論だが、絶えず全体会で議論しなければいけないと思う。全体会を必ず想定しておいて欲しい。改修のあり方についての専門部会を立ち上げて欲しい。絶えず分科会・専門部会と全体会が機能し合ってゆけるようにしていきたい。

5. 今後の進め方

座長：この資料でもそのようなつくりになっており、今の意見通り進めていくと思う。今後の進め方についてだが、3月中にこの枠組みを決めてスタートしたい。スケジュールについて事務局からお願いしたい。

事務局：年度内にまとめて次にバトンタッチしていきたい。日程的には3月5日の週にこれに関して議論をしたい。専門部会の内容など具体的に決めて生きたい。そこでまとまらなければ3月末にもう1度開きたい。その流れでよければ日程を調整したい。

座長：何か意見はあるか。

行政委員：3月いっぱいやりたい。

座長：考え方をメモして事務局まで送ってもらいたい。大変かと思うがあと2回の間に決めていきたい。皆さんの任期は2年となっているが、会の立ち上げが一昨年の11月だったので、今年の11月までとして欲しいがいかがか。

【全員承認】

市民委員：今日は時間が無くて発言できなかったが、その場合あとで文章で出して発言したこと
にしてくれないか。

座 長：それは次回にご提案いただいて議論したい。文章の中身にもよると思う、次回は議論の
時間を長く取りたい。長時間ありがとうございました。進行を事務局に返したい。

6. その他

事務局：長時間の議論ありがとうございました。最後に所長から挨拶をお願いしたい。

所 長：地域の意見を反映する川づくりを進めるということでこの会を始めた。治水と自然との
共生が重要な課題である。柳瀬川・空堀川でもこれまでは水があふれている。道路が冠
水して通行止めになっている。治水向上と同時に大きな都市空間である貴重な財産とし
て、皆さんの意見を伺いながらよりよいものにしていきたい。本日は色々と議論頂いた
と思う。市によってテーマも違うと思うが、皆さんと意見を交換しながら進めていき
たい。8年前に工事第二課長をしており、金山調節池等の整備を進めていたが、その時は
このような会は無かった。これからはこの会で出されたご意見をもとに、よりよいまち
づくりを進めていきたい。本日は、多くの人から活発な議論がされたと思う。意見を交
わしながらお互いの立場を尊重して川づくりを進めていきたい。お忙しい中、ありが
うございました。

7. 閉 会

事務局：次回は3月初旬ということで、各市で議会に入り忙しいかと思うが、内容の詰めなので
できるだけ出席して欲しい。これで閉会にしたい。長時間ありがとうございました。

(以上)

お問い合わせは...

「柳瀬川・空堀川流域連絡会」事務局

東京都北多摩北部建設事務所 TEL：042-525-9811